

金属団地ニュース





平成28年度 金属団地安全大会



安全衛生管理者協議会

会長 柳原 幸一

平成27年は統計を取り始めて以来、初めて年間の死亡者数が、1,000人を下回りました。しかし一方、経験が浅い労働者が職場に潜む危険を察知できないことなどを背景として、休業災害を含む労働災害全体の数は十分な減少傾向にあるとは言えない現状にもあります。そこで第89回を迎えた今年度の安全衛生週間は、「見えますか？あなたのまわりの見えない危険 みんなで見つける安全管理」をスローガンに実施されました。

準備月間中の6月15日には、プレパトロールを実施し、「安全週間点検表」にある重点点検項目を中心とした、改善を必要とされる項目の指摘を行い、本週間パトロールまでに直して頂くよう各企業にお願いをしました。

7月1日朝8時30分よりパトロール開始。協議会役員は、岐阜労働基準監督署の青木賢次主任監督官(今年4月より新しく担当となりました)とともに(株)ミヤナガさん、(株)津田工業さん、(株)マルエイさん、(株)サクラダ工業さんの4社を訪問し、各社ごとに講評を頂きました。

午前10時「安全大会」開始。会長挨拶で「昨日も可児市にある当社と同じ金への企業で重大事故が発生しました。旋盤加工での事故ですが、加工物へのチャックの締め忘れ、または緩んでいたか、で材料が大きく振れ、頭に当たった、とのこと。災害は、“見えない危険”ではなく、“見えている危険”にもかかわらず、いつもの仕事だから、という《慣れ》と、俺は技術があるから、という《過信》と、簡単な仕事だから、という《油断》がほとんどすべてと言って良いでしょう。初心に戻って安全確認をしてほしい」とお願いしました。



4つの各委員会ごとに取りまとめた点検結果を報告して頂いた後、岐阜労働基準監督署の青木賢次主任監督官より、パトロールされた4社への講評と指摘、金属団地の安全活動に対する評価、そして安全活動の注意点や労働災害発生の様態を分かりやすくご説明頂きました。特に、初めて当団地の安全大会に参加された印象としての絶大な評価に意を強くすると同時に、この評価をますます大きなものにして行きたいとの思いも強くしました。すべて

の企業の前向きな取り組みを期待します。

最後に安全・衛生コンサルタントの中尾守孝先生による「最近の安衛法の改正と災害事例」(これからの安全管理をどう進めるべきか)と題するご講演を頂き大会を無事終了することができました。

今回の優良事業場として、(株)ミヤナガさん、(株)津田工業さん、(株)マルエイさん、(株)サクラダ工業さんの4社すべてが推薦されました。おめでとうございます。



監督官総評



岐阜労働基準監督署

主任監督官 青木賢次

貴組合におかれましては、平素から労働基準行政、とりわけ労働災害防止について、格別のご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。また、安全大会や安全パトロールなど自主的な安全活動に取り組んでいただいていることに敬意を表します。

岐阜労働基準監督署管内の平成27年の全産業の休業4日以上労働災害は668件と、前年から6件の増加となりましたが、製造業においては185件と、13件の減少となりました。とりわけ、ここ各務原市金属工業団地内の平成27年の労働災害は5件と、前年から8件の減少となりました。これもひとえに皆様方の安全活動の成果と考えております。

しかし、まだゼロではありません。労働災害は本来あってはならないものです。

安全活動の目標はあくまで「災害ゼロ」です。

そのためには、今一度、「災害ゼロ」とするために、誰が、いつ、何をすべきかを明確にして、安全活動に取り組むことが必要です。

安全活動とは、人、物、設備を最も望ましい姿にする活動です。その成果は品質や能率の向上にもつながります。経営トップは、①安全活動に対する的確な指示と予算措置を行っているか、②管理監督者に安全管理の権限を与え、その職務を行わせているか、③安全活動が不十分であることを黙認していないかについて、常に意識することが重要です。経営トップの安全活動に対する姿勢が職場に浸透すると、全員の安全意識も高まり、働きがいのある快適な職場が構築されます。

本日は、貴組合の安全大会に加えて、安全パトロールにも参加させていただきました。

安全パトロールの目的は、普段見過ごされている危険の芽(問題点)を、他者からの視点で発見し、その芽を摘み(対策を実施し)、その効果を確認することです。安全パトロールでの指摘は、その時、その場所で発見した芽(問題点)であり、いわば点の指摘です。パトロール時点で、それが出ていなければ、気づかずに見逃してしまうことも多々あります。したがって、安全パトロールで指摘された内容は、むしろ問題点の一部と受け止め、点の指摘を面に広げて、社内で検討を重ねて問題の解決を図っていただきたいと存じます。

今回のパトロールでは、4S(整理・整頓・清掃・清潔)、作業環境(温度・音・採光・照明・通路・掲示)、機械の安全対策、保護具、墜落防止といった視点で観させていただきました。

まず良かった点です。

一つ目は、照明をLED電灯に取り替え、明るい作業場をしていたことです。手元だけでなく、職場全体が明るい印象を受けました。

二つ目は、床面を色分塗装していたことです。通路は緑、作業範囲はオレンジ、機械の稼働範囲(危険範囲)は黄色で塗装してありました。作業者はもちろん、安全パトロール等で立ち入る外部者もひと目でわかりました。そして安全通路が確保されていた点です。

三つ目は、冷房設備を設置稼働し、快適な温度環境の中で作業されていたことです。

四つ目は、従業員から改善提案を募り、その提案事項を見やすい箇所に掲示して周知し、職場の模範となる提案事項に賞を与えていたことです。本人達の励みになるだけでなく、他の作業者に対する刺激にもなり、安全意識の高揚にもつながります。

五つ目は、有機溶剤業務や粉じん業務に対して、ロボットによる自動化、密閉化、局所排気装置の設置・稼働、保護マスクの着用等の有害防止対策がきちんと行われていたことです。

六つ目は、どの会社も、全国安全週間のポスターを玄関等の見やすい箇所に掲示し、会社全体、さらには、金属団地一体となって安全意識の醸成に努められていたことです。まさに、安全活動とは、全員参加の組織活動という気概が伝わってきました。



改善をお願いしたい点は次の通りです。

一つ目は、造型機等の機械において、機械の外側に扉を設けている場合に、扉が閉じていなければ機械が作動しない等の安全措置が徹底されていないことです。人は間違える、ミスをする（フールプルーフ）を前提に、機械の安全対策を講じてください。

二つ目は、プレスブレーキ（ベンダー）に対する安全措置が行われていないことです。プレスブレーキについても、法令に基づく安全措置を講じてください。

三つ目は、機械の点検等によって機械の運転を停止した時には、機械の起動装置に「点検中」の表示板を取り付ける等、点検作業に従事する者以外の者が機械を運転することを防止するための措置が徹底されていないことです。点検等の際には、必ず、起動装置に「点検中」の表示板を取り付ける等していただき、機械の誤操作による事故を防いでください。

以上、現場で、現物を、現実的に見る、という「三現主義」に徹して、安全活動を継続して、「災害ゼロ」を目指しましょう。

7月度月例会開催

7月25日（月）の正午より組合研修センター3階集会室にて7月度月例会が開催されました。月例会に先立ち、先日行われた安全大会にて優良事業場選ばれた（株）ミヤナガ、（株）津田工業、（株）マルエイ、（株）サクラダ工業の表彰が行われました。

今回の月例会は講師に日本政策金融公庫 総合研究所 中小企業研究第二グループリーダー 安池 雅典氏をお迎えし、『最近の経済・金融情勢』、『中小企業の健康経営』の2つをテーマにご講演いただきました。



退任役員慰労会及び新役員歓迎会開催

7月22日(金)18時より岐阜グランドホテルにて退任役員慰労会及び新役員歓迎会を開催いたしました。5月27日の通常総会終了をもって退任された和田勝博氏は、平成10年より18年間、副理事長を10年、常任理事を2年、理事を2年、監事を4年務められました。永きにわたり組合運営にご尽力いただきありがとうございました。役員を退任されたこれからも、引き続き組合運営にご協力いただけますようお願いいたします。また今回より理事になられた森田吉久氏には、何事にも積極的に取組まれる姿に、役員一同大いに期待しておりますのでよろしくお願いいたします。



なお、お二人には来月号の団地ニュースにコメントをいただく予定ですのご期待下さい。

ナゴヤドーム観戦ツアー開催10年目を迎えて

ナゴヤドームをホームグラウンドにしております中日ドラゴンズは、今季球団創設80周年を迎えメモリアルイヤーとなりました。そんな折、7月4日(土)、今年では中日ドラゴンズ対阪神タイガース戦の観戦ツアーを開催しました。初回開催より10年目を迎えた今回は50名の参加が得られました。



大型バスでナゴヤドームへ向け組合を定刻通り12時30分に出発、青年部の岩井会長にバス内で観戦ツアーにおける注意事項の説明等お手伝いをいただきました。13時50分頃ナゴヤドームに無事到着。試合開始の15時まで、ドーム内を散策したりお弁当を食べたり、皆さんのんびり過ごしました。さて試合はと言いますと、3時間30分を超える熱戦でしたが、参加者の大多数を占めるドラゴンズファンの応援も空しく2対3でドラゴンズの惜敗でした。しかし福田永将選手のホームランは一見の価値があると思います。ホームランは野球の醍醐味です。ドラゴンズファンの皆さん、次回に期待しましょう。

冒頭でもお伝えしましたがこの観戦ツアーは1回の中止をはさみ10年目を迎えました。第1回開催から今回までの参加人数や試合結果等をドラゴンズ目線で取りまとめた下記の表をご覧ください。

開催	年度	日付	対戦相手	参加人数	内子供	試合結果	監督	最終順位	勝率
1	2007	8/25	阪神	156	40	0-2 ●	落合	2	.549
2	2008	7/5	巨人	205	44	2-7 ●	〃	3	.511
3	2009	7/4	巨人	200	41	4-2 ○	〃	2	.566
4	2010	7/10	巨人	172	39	7-1 ○	〃	優勝	.560
—	2011	6/5	ロッテ	定員割れのため中止			〃	優勝	.560
5	2012	7/14	巨人	155	23	1-2 ●	高木	2	.586
6	2013	7/27	巨人	89	19	3-9 ●	〃	4	.454
7	2014	7/26	巨人	85	11	7-5 ○	谷繁	4	.479
8	2015	7/4	巨人	77	8	3-3 △	〃	5	.446
9	2016	7/4	阪神	50	3	2-3 ●	〃		

順位や監督名で様々なシーンがよぎるドラ党もみえる事と思いますが、それは少し置いておいて…この観戦ツアーの成績は9戦3勝5敗1分、勝率は3割7分5厘です。打率であれば首位打者級の成績ですが、勝率となるといささかびっくりします。このツアーで勝利の万歳三唱をした方は運がいいと言えるのではないのでしょうか。逆に、密かにドラゴンズファンに混じって対戦チームを応援していた方には、このツアーは縁起の良いツアーとなっていることでしょう。

肝心の参加人数に目を向けると、第1回開催では定員の150名を越える応募があり、2回目以降定員を200名へと増員。またナイターゲームだと帰宅が遅くなり、小さなお子さん連れには負担がかかるため、デーゲームにし、席も観戦しやすい席へ変更しました。お子さん連れの参加も多く、子供たちの賑やかな応援が恒例でした。(第1回目は青年部主導、2回目より労務委員会主導です)

しかしながら2011年には参加者の大幅な定員割れがあり初の中止となりました。その後の参加者人数は下降の一途を辿り、お子さんの参加も減少し現在に至ります。参加者減少は、主催側の努力不足のあらわれか、対戦相手や開催内容の問題か、はたまた福利厚生事業に求められるものの変化か、いずれにせよ金属団地企業にお勤めの方にとって、よりよい福祉厚生事業となるよう努力する所存です。

ご参加いただいた皆さん、お疲れ様でした。





「なんじゃもんじゃ」

数年前のことであるが門の脇に植わっていた松の木が突然枯れた。葉の先の色が少しおかしいなど思っている内にどんどんと赤くなって、それこそあつという間の出来事であった。40年ほど前に岐阜市からこの各務原市に移ってきた時に、当時親しくしていた酒屋の主人がお祝いにと贈ってくれた松であった。憎っくき松喰虫とは一体どんな虫なんだろう、どんな姿をしてどれくらいの数で太い松のどこを攻撃するのだろうか。幹の周りが3尺もありそうな松をいとも簡単に枯らしてしまうとは誠に恐ろしい集団である。

庭師さんに電話をしたら何はともあれ直ぐに切り倒しに来ると言う。私は切る前に松の根元に日本酒をかけてやった。永年飼っていた愛犬を失った時の感情に近いものを覚えたことであった。

庭師が松のあとはどうしようと言うから、お任せしますと言っておいたら数日後に一本の木を持って現れた。芭蕉の句に「道のべの木槿は馬に食われけり」というのがあるがその“むくげ”の木であった。

初夏の木の花には白色が多いと聞かすが、このむくげも朝顔のような型の花がおびただしい程に咲き、まるで雪をかぶった木が出現したかのようである。梅雨入りの頃から咲きはじめて1ヶ月くらい次から次へとこれでもかというくらいに狂い咲く。

白くて大きな花をつける“泰山木”という名前は聞いたことがあるけれど実はこのむくげという木のことは知らなかったのであった。

白い花と言えはすぐに思い浮かぶのは早春の辛夷(こぶし)とそれを追いかけるように咲き出す木蓮(もくれん)がある。木蓮は春の初めにどこでも見られるよく目立つ木だが、新加納の善休寺にある白木蓮は実に見事な大木である。

花に厚みがありぼってりとした木蓮が年増の女性ならこぶしは若鮎を思わせる少女の風情だろうか。

関市から富加に抜ける小さな峠道が“こぶし街道”というのをご存知だろうか、早春に可憐な花が咲きならぶ希少な道である。

桜並木と言われる所は全国にたくさんあるけれど、岐阜の伊奈波神社の参道のしだれ桜ばかりの並木は珍しく岐阜祭に合わせて咲き揃う様は見事という外はない。

岐阜市街の中心部にある金神社には大きなひとつばたご(なんじゃもんじゃ)の木があり満開になると必ず新聞紙上を賑わすので有名である。

岐阜の競輪場から東にのびる道路の両側にこのなんじゃもんじゃが植えられている。まだまだ若い木でそれほど多くの花をつけないが10年もすればきっと名物街道になることだろうと思っている。春の初めから初夏にかけて庭の木々が一年中で一番光り輝く時であり、何もしないでただぼっと眺めているだけで時を忘れることである。白い雪柳と対照的な赤いボケの花が終わる頃にツバキの大木から大きな花が落ちてくる。「沈香」と「丁香」を合わせたものが名前の由来であることは知らなかった沈丁花が強烈な香りを放ち、これに負けじと甘く濃厚な香りで存在感を示すのは“くちなし”である。ゴールデンウィークが終わった5月の半ば頃に庭の西の端にあるミカンの木が白い五弁の小花をつける。群がり咲く花は木の周りを甘い香りで包み、散った花が歩道を白く染める。めでたく受精して実になるのは100個くらいだが落ちる花はその何倍もあると思われる。仁丹くらいの青い粒はやがてビー玉くらいに膨らみ、いつの間にかゴルフボールくらいに成長する。秋の終わりには黄金色をしたソフトボール程の大きな蜜柑となり、女房の手でマーマレードに変身するのである。



青年部OBとの親睦ゴルフと懇親会

7月10日(日)に美濃関カントリークラブにて、青年部親睦ゴルフが開催されました。通例は青年部現役会員のみで開催する親睦ゴルフですが、久しぶりにOBの先輩方とも交流を図りたいという思いで、平成20年度以降に卒業された先輩方へお声がけをさせて頂きましたところ、8名の先輩方にご参加を頂き、総勢5組20名の大きなコンペとすることができました。



天候にも恵まれ、活気ある素晴らしいコンペのスタートをきったところまでは良かったのですが、どうやら天候に恵まれすぎて暑かったのか、はたまた昨夜の不摂生が原因なのか、次第に足どりも身体のキレも悪くなり、ボールが真横に飛んでいったり、特設4打に列をなしていたり、グリーンを何度も往復するといった光景が繰り返されました。

何とか全員が無事にホールアウトしたものの、100打を切ったのが僅かに5名だけということで、ゴルフのスコアは散々な結果ではありましたが、先輩と現役メンバーで芝生の上での語らいはしっかりとすることができました。



そしてゴルフ終了後には、名鉄岐阜駅前の塚田農場にて懇親会ならびにコンペの表彰式を行いました。今回のコンペはダブルペリア形式で行い、優勝はご自身もビックリの横山先輩、そしてベストグロスには鳥山先輩ということで、先輩方のご活躍が際立つゴルフコンペとなりました。現役メンバーも、いつか先輩方に追いつけるように頑張りたいものです。

また、懇親会の中では、それぞれの近況報告や仕事の話などもありましたが、金属団地の未来についても、これから組合活動で中樞を担ってご活躍されていくOBの先輩方と色々とお話をさせて頂くことができ、大変有意義な懇親会とすることができました。

今後とも、先輩方との交流を密にとり、組合青年部活動を積極的に展開していきたいと思っておりますので、引き続きゴルフもそれ以外でもご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

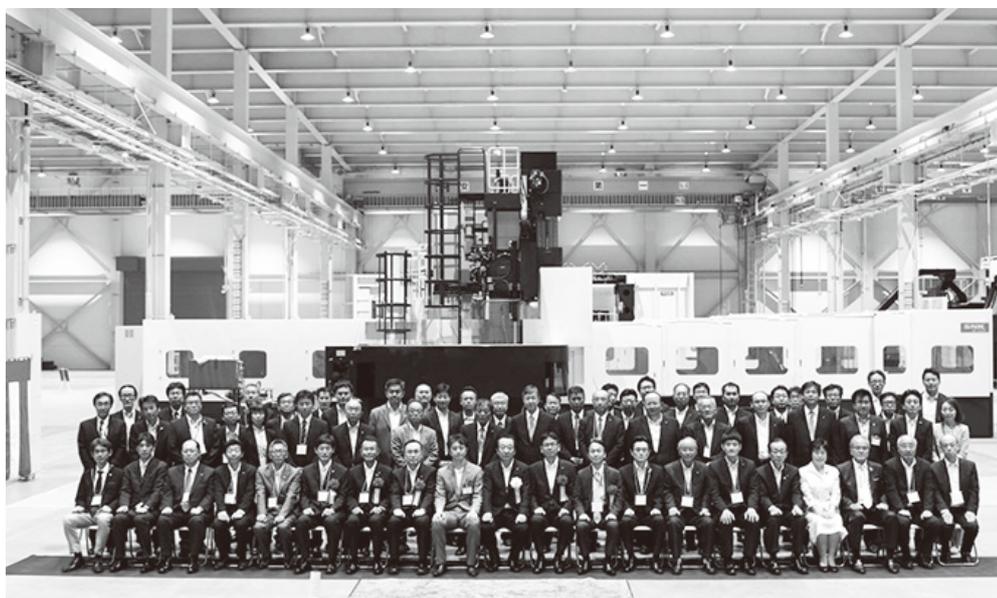
今回参加された青年部OB代表として、鳥山副理事長から青年部にメッセージをいただきました。

君たち青年部会員は会社の次代を担っていく人材であり、青年部はそのためにさまざまなことを勉強したり、お互いに高めあっていく場所であってほしいと思っています。特に、自分の10年くらい上の年代の方から学べる事というのは非常に多いので、先輩をどんどん利用してください。会員数の減少という悩みがあるようですが、少人数ゆえのメリットというものもあるはずですよ。君たちは若いのですから、失敗も含め全てが糧になります。肩肘を張らず、自由にやりたいことをやってください。我々としても、若い人たちと交流するというのは刺激になりました。また機会があれば是非誘ってください。

今井航空機器工業（株）鳥取工場が完成

今井航空機器工業（株）の鳥取工場が鳥取市広岡の新津ノ井工業団地内に完成し、6月29日（水）に竣工式が行われ、航空機産業の新たな拠点が誕生したとして、その模様が日本海テレビのニュースで紹介されました。竣工式には今井社長の外、平井鳥取県知事も出席し、今後ボーイング777Xを中心に、航空機の翼の付け根部分や胴体のフレームなどの部品が製造される工場の見学が行われました。

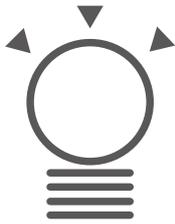
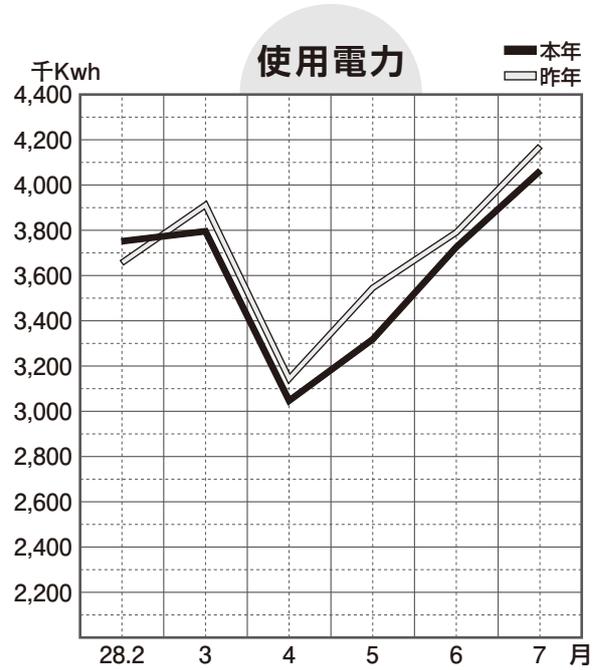
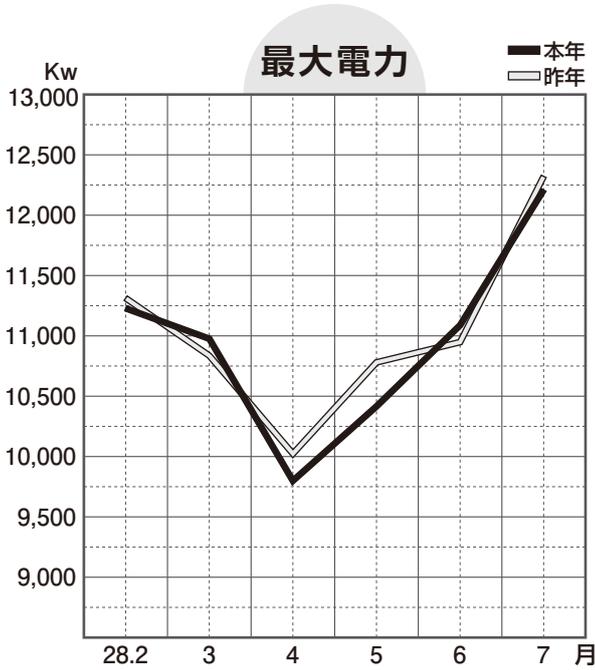
今井社長はニュースのインタビューで、「東海地区は人の採用が難しくなりつつある。鳥取で優秀な人員を確保したい。」と話した通り、鳥取工場ではすでに地元から27人が正社員として雇用され、2020年度までに100人の雇用を目指すとしています。工場を見学した平井知事も、「人材育成が進んでくると、航空機産業に地元の企業が参入したり、他から企業がやってくるきっかけにもなるのではないか。」と話し、航空機産業という新たな分野の参入によって、地元産業の活性化に期待が高まっていると紹介されました。





お知らせ

平成 28 年 7 月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

雷シーズン到来

雷シーズンです。雷の特性を知って落雷による感電事故を防ぎましょう。

雷は、雷雲の位置次第で海面・平野・山岳など所を選ばず落ちます。

ただ近くに高いものがあるとこれを通して落ちる傾向があります。

避雷針はこの傾向を利用し落雷を誘導し、雷を安全に大地に逃がす装置です。避雷針にかかわらず高いものは落雷を引き寄せる効果が大きく、鉄塔も樹木も高さが同程度なら落雷を引き寄せる効果は同じと考えられています。鉄塔や樹木には雷電流を大地に安全に逃がす工事がしてないため、落雷時に鉄塔や樹木の近くにいた場合、落雷電流を受ける可能性が大きく危険です。雷に遭遇したら鉄筋コンクリートの建物や自動車などに速やかに避難しましょう。

平地で避難場所がなくやむを得ない場合は、踵をそろえ爪先立ちで姿勢を低くして雷が通り過ぎるのを待つといったのが効果的です。



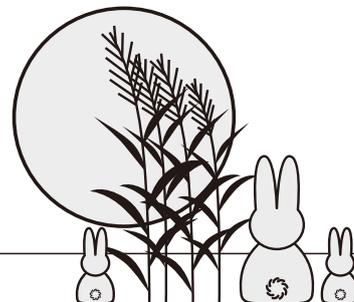
行事予定

2016 **8** August

16 火	『組合休日』
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	『組合休日』
21 日	
22 月	月例会・役員会
23 火	愛知県中小企業組合士会との合同研修会
24 水	人事・労務担当者養成セミナー
25 木	
26 金	
27 土	団地G(第50期取り切り戦) 『組合休日』
28 日	
29 月	
30 火	組合執行部と語る会と懇親会
31 水	

2016 **9** September

1 木	
2 金	
3 土	『組合休日』
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	『組合休日』
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	



■ 9月・10月・11月の行事予定

- 9月24日 団地G
- 10月16日 金属団地内停電 (9:00~17:00)
- 10月22日 青年部合同団地G
- 10月24日 月例会
- 11月21日 月例会

■ 7月度金属団地ゴルフ会

- 7月30日 各務原カントリー倶楽部
- 優勝 鳥山 仁 (共和鑄造所) 2位 山村容弘 (山村製作所) 3位 秋田耕治 (秋田鉄工)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

